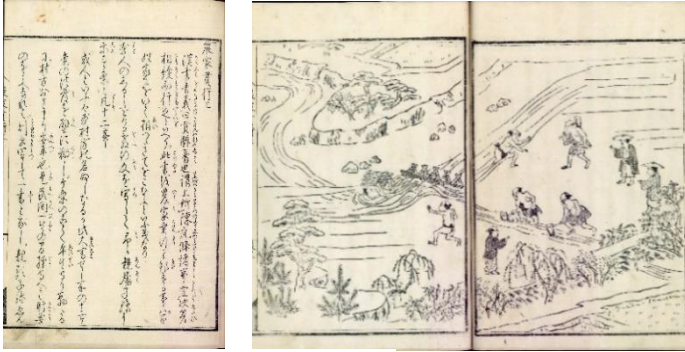


えいりのうかかんこう

## #39 繪入農家貫行 (農家貫行)

作者：蓑笠之助 (みの・かさのすけ 1687-1771)

刊行：元文元年 (1736)



[K61/71]

 解題

## ■ 内容

『繪入農家貫行』は一般には『農家貫行』として知られている資料である。上下2巻2冊。ある村の名主が12ヶ条の法度を親類・子孫・縁者に解説するという形式をとった、「農民はこのように生きるべし」と説く農家の手引書となっている。刊行前の享保19年(1734)には支配地の村々へ配布し、農民へ読み聞かせたようである(金手村「諸事控川除方共控」)。

「繪入」と題されているが、挿絵は上下各巻にそれぞれ2枚ずつである。このほかに宝暦9年(1759)、天明元年(1781)、文化元年(1804)の刊行が確認できる。

## ■ 作者

作者は蓑笠之助正高。江戸小沢家に生まれ、享保元年(1716)に巳野(みの)庄之助兼政の養子となり、巳野庄次郎と名乗った。享保11年(1726)に酒匂川大口・岩流瀬堤防修築工事に参画、翌12年(1727)正月には「酒匂

川堤川除御普請并修復御用」となる。同14年（1729）8月には関東地方御用掛の大岡忠相の支配に入り、蓑笠之助正高と改名する。翌15年（1730）2月からは酒匂川西堤の普請や3万3千石余の支配地の荒地開発場の吟味等を担当し、同17年（1732）に支配勘定格、元文4年（1739）には代官に進んだ。



### 本文を読む

< 翻刻 >

「農家貫行」『日本経済叢書』巻5 日本経済叢書刊行会 1914 [332.1/2/5]

「農家慣行」『日本経済大典』第11巻 史誌出版社 1928 [308/16/11]



### 参考文献

「享保19年7月 代官蓑笠之助自著農家貫行を支配所村々へ配布し農民へ読聞かせ申渡」（金手村「諸事控川除方共控」より）（『神奈川県史 資料編7近世（4）』神奈川県企画調査部県史編集室 1975）

[K21/16/7] [213.7/10/7]

狩野亨二「蓑笠之助正高の林業思想」（『林業経済』29（5） 林業経済研究所 1976） ※当館未所蔵 CiNii オープンアクセスで閲覧可能

青木美智男「蓑笠之助の村役人教育」（『神奈川県史 各論編3 文化』神奈川県県民部県史編集室 1980） [K21/16-2/3] [213.7/10-2/3]

高橋光二「代官蓑笠之助の思想」（『近世の支配体制と社会構造』北島正元編 吉川弘文館 1983） [210.5/256]

松尾公就「【資料紹介】蓑笠之助の『農家貫行』と『続農家貫行録』」（『小田原地方史研究』第24号 小田原地方史研究会 2007） [K20.7/6/24]